

県民のあゆみ



山形県広報誌
令和5年3月号

県民のあゆみ

No.632

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページURL https://www.pref.yamagata.jp/



どうなってるの!?

やまがたけんきょう ど かん ぶんしりょうかん こうへん
山形県郷土館「文翔館」後編

にほん かどう とけいとろ ほんめ みる
日本で稼働している時計塔では2番目に古い文翔館の時計。
いったい どうやっ て うご いているの?

ほんたい じょう くらかん
時計の本体は2.5畳の空間に!
でんき ふんどう おも
電気ではなく、分銅の重さで動いています。

今回は文翔館のシンボル「時計塔」のお話。現在日本で動いているものの中で、札幌の時計台の次に古く、文翔館が創建された1916年(大正5年)から100年以上の時を刻んでいます。この時計塔の仕組みを作ったのは山形市生まれの時計職人だった阿部彦吉。以前は館内に50機ほどの子時計があり、時計塔の親時計と連動させて時刻を合わせる仕組みでした。時計は、装置からワイヤーで吊り下げられた分銅(重り)を巻き上げ、少しずつ分銅が下がる力で時計の針を動かす「重錘式」。分銅は5日くらいで下ってしまい、また古い時計なので多少のズレが出るため、現在も5日に1回時計職人が分銅を巻き上げたり、時間の調整などの管理をしています。時計本体がどこで作られたのかは今も謎のままですが、ビッグ・ベンなど時計塔の文化で知られるイギリスではないかといわれています。



分銅を巻き上げ、エネルギーを確保!



文翔館時計職人(榎谷時計店)
榎谷秀一さん

山形のシンボルとして、テレビや映画にも出てくる時計塔。100年以上も前から時を刻む時計は山形を象徴するシンボルだと思います。ぜひ近くで見上げてみてください。そして、山形の歴史を感じてほしいです。



時計職人だけが歩く暗くて狭い通路

梁が剥き出しの天井裏。この梁の隙間をくぐり抜け、時計職人はメンテナンスのために時計塔に入ります。昔はライトもなく暗闇だったそうです。



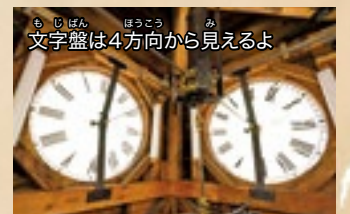
時計の装置にはたくさんの歯車!

100年以上も変わらない時計の装置。小さい歯車から大きい歯車へと、動力を伝えます。



時計を動かす分銅

時計の装置から吊り下がる分銅。重さ26.5キログラムの分銅が、この時計を動かす力となっています。



文字盤は4方向から見えるよ

文字盤の大きさは直径1メートル。1つの動力で4面の時計を同時に動かしているの、どの方向からでも時間がわかります。



- 2 | 県民の皆さまへ 知事メッセージ
- 4 | 特集 未来へつなぐやまがたのみちづくり
～東北中央自動車道開通を生かす!～
- 8 | 奏であう人 国際交流から山形の価値を再発見
- 16 | 潜入レポート! 山形県郷土館「文翔館」後編

- | 今月の表紙 📷 |
- 最上川舟下りの船頭のお二人。最上川舟下りは、最上川の雄大な自然の中を、船頭の舟唄と名調子を聞きながら、屋形船で下ります。皆さんも、東北中央自動車道を使って、各地に足を運んでみてはいかがでしょうか。(撮影協力:最上峡芭蕉ライン観光株式会社)